日獨宣戰布告通知ノ件

7-0177

0447

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

政機密送第一〇號

大正三年八月十五日

加藤外務大臣

在本邦
独國大使

以書翰致啓上候陳者帝國政府ハ別紙ノ記載セルカ如キ趣旨ノ貴國政府ニ可申入旨伯林駐在帝國臨時代理大使ニ訓令致候間閣下ヨリモ至急貴國政府ヘ御傳達相成候様致度右申進候本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

外務省

7-0177

0448

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

（大正三年八月十四日閣議決定）

帝國政府ハ現下ノ狀勢ニ於テ極東ノ和平ヲ紊乱スヘキ源泉ヲ除去シ日英同盟協約ノ豫期セル全般ノ利益ヲ防護スルノ措置ヲ講スルハ該協約ノ目的トスル東亜ノ平和ヲ永遠ニ確保スルカ為ニ極メテ緊要ノ事タルヲ思ヒ茲ニ誠意ヲ以テ独乙帝國政府ニ勧告スルニ同政府ニ於テ左記二項ヲ實行セムコトヲ以テス

第一

日本及支那海洋方面ヨリ独乙國艦艇ノ即時ニ退去スルコト退去スルヲ能ハサルモノハ直チニ其武裝ヲ解除スルコト

第二

独乙帝國政府ハ膠州湾租借地全部ヲ支那國ニ還附スル目的ヲ以テ一千九百十四年九月十五日ヨリ有効ノ無条件ノ日本帝國官憲ニ交附スルコト

外務省

日本帝國政府ニ於テ叙上ノ勧告ニ對シ一千九百十四年八月廿三日正午迄ニ無条件ニ應諾旨独乙帝國政府ヨリノ回答ヲ受領セサルニ於テハ帝國政府ハ其儘要ト認ムル行動ヲ取ルヘキコトヲ聲明ス

7-0177

0449

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本國皇帝ハ忠實勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ獨逸國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海軍ハ宜ク力ヲ極メテ戰鬪ノ事ニ從フヘシ朕カ百僚有司ハ宜ク職務ニ率循シテ軍國ノ目的ヲ達スルニ勗ムヘシ凡ソ國際條規ノ範圍ニ於テ一切ノ手段ヲ盡シ必ス遺算ナカラシムルコトヲ期セヨ

朕ハ深ク現時欧洲戰亂ノ殃禍ヲ憂ヒ專ラ局外中立ノ誼守シ以テ東洋ノ平和ヲ保持スルヲ念トセリ此ノ時ニ方リ独逸國ノ行動ハ遂ニ朕ノ同盟國タル大不列顛國ヲシテ戰端ヲ開クノ已ムナキニ至ラシメ其ノ租借地タル膠州灣ニ於テモ亦日夜戰備ヲ修メ其ノ艦艇若ハ東亞ノ海洋ニ出没シテ帝國及與國ノ通商貿易ヲ威壓ノ危殆極東ノ平和ハ正ニ

外務省

危殆ニ瀕セリ是ニ於テ朕カ政府ト大不列顛國皇帝陛下ノ政府トハ相互隔意ナキ協議ヲ遂ケ兩國政府ハ同盟協約ノ豫期セル全般ノ利益ヲ防護スル為必要ナル措置ヲ執ルニ一致シタリ朕ハ此ノ目的ヲ達セントスルニ當リ尚努メテ平和ノ手段ヲ盡サムコトヲ欲シ先ツ朕カ政府ヲシテ誠意ヲ以テ独逸帝國政府ニ勧告スル所アラシメタリ然レトモ所定ノ期日ニ及フモ朕カ政府ハ終ニ其ノ應諾ノ回牒ヲ得ルニ至ラス

朕皇祖ヲ踐ミ未タ幾クナラス且今尚皇妣ノ喪ニ居レリ恒ニ平和ニ眷々タルヲ以テシテ而カモ竟ニ戰ヲ宣スルノ已ムヲ得サルニ至ル朕深クヲ憾トス

朕ハ汝有衆ノ忠実勇武ニ倚賴シ速ニ平和ヲ克復シ以テ帝國ノ光榮ヲ宣揚セムコトヲ期ス

御名御璽

7-0177

0450

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大正三年八月二十三日

内閣總理大臣兼内務大臣　伯爵大隈重信

農商務大臣　子爵大浦兼武

外務大臣　男爵加藤高明

陸軍大臣　岡市之助

海軍大臣　八代六郎

大藏大臣　若槻禮次郎

文部大臣　法學博士　一木喜德郎

司法大臣　尾崎行雄

逓信大臣　武富時敏

外務省

7-0177

0451

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

官報 號外 大正三年八月二十三日 日曜日 印刷局

○詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本國皇帝ハ忠實勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ獨逸國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海軍ハ宜ク力ヲ極メテ戰鬪ノ事ニ從フヘク朕カ百僚有司ハ宜ク職務ニ率循シテ軍國ノ目的ヲ達スルニ勗ムヘシ凡ソ國際條規ノ範圍ニ於テ一切ノ手段ヲ盡シ必ス遺算ナカラムコトヲ期セヨ

朕ハ深ク現時歐洲戰亂ノ殃禍ヲ憂ヒ專ラ局外中立ヲ恪守シ以テ東洋ノ平和ヲ保持スルヲ念トセリ此ノ時ニ方リ獨逸國ノ行動ハ遂ニ朕ノ同盟國タル大不列顛國ヲシテ戰端ヲ開クノ已ムナキニ至ラシメ其ノ租借地タル膠州灣ニ於テモ亦日夜戰備ヲ修メ其ノ艦艇荐ニ東亞ノ海洋ニ出沒シテ帝國及與國ノ通商貿易爲ニ威壓ヲ受ケ極東ノ平和ハ正ニ危殆ニ瀕セリ是ニ於テ朕ノ政府ト大不列顛國皇帝陛下ノ政府トハ相互隔意ナキ協議ヲ遂テ兩國政府ハ同盟協約ノ豫期セル全般ノ利益ヲ防護スルカ爲必要ナル措置ヲ執ルニ一致シタリ朕ハ此ノ目的ヲ達セムトスルニ當リ尙努メテ平和ノ手段ヲ悉サムコトヲ欲シ先ツ朕ノ政府ヲシテ誠意ヲ以テ獨逸帝國政府ニ勸告スル所アラシメタリ然レトモ所定ノ期日ニ及フモ朕ノ政府ハ終ニ其ノ應諾ノ回牒ヲ得ルニ至ラス

朕皇祚ヲ踐テ未タ幾クナラス且今尙皇妣ノ喪ニ居レリ恆ニ平和ニ眷々タルヲ以テシテ而カモ竟ニ戰ヲ宣スルノ已ムヲ得サルニ至ル朕深ク之ヲ憾トス

朕ハ汝有衆ノ忠實勇武ニ倚賴シ速ニ平和ヲ克復シ以テ帝國ノ光榮ヲ宣揚セムコトヲ期ス

御名御璽

大正三年八月二十三日

内閣總理大臣兼内務大臣 伯爵大隈重信
農商務大臣 子爵大浦兼武
外務大臣 男爵加藤高明
陸軍大臣 岡市之助
海軍大臣 八代六郎
大藏大臣 若槻禮次郎
文部大臣 法學博士 一木喜德郎
司法大臣 尾崎行雄
遞信大臣 武富時敏

7-0177
0452
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

官報號外　大正三年八月二十三日（明治二十五年三月三十一日第三種郵便物認可）

官報

號外

大正三年八月二十三日　日曜日

印刷局

○詔書

朕軍國ノ急務ニ關シ帝國議會ノ協賛ヲ望ムモノアリ茲ニ帝國憲法第七條及第四十三條ニ依リ本年九月三日ヲ以テ臨時帝國議會ヲ東京ニ召集シ三日ヲ以テ會期ト爲スヘキコトヲ命ス

御名御璽

大正三年八月二十三日

内閣總理大臣兼内務大臣　伯爵大隈重信
農商務大臣　子爵大浦兼武
外務大臣　男爵加藤高明
陸軍大臣　岡市之助
海軍大臣　八代六郎
大藏大臣　若槻禮次郎
文部大臣　法學博士一木喜德郎
司法大臣　尾崎行雄
遞信大臣　武富時敏

○勅令

朕獨逸帝國船舶拿捕免除ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

大正三年八月二十三日

内閣總理大臣　伯爵大隈重信
海軍大臣　八代六郎

勅令第百六十三號

第一條　本令施行ノ際帝國又ハ其ノ管治スル地域ノ港又ハ泊地内ニ在ル獨逸帝國船舶ハ大正三年九月五日迄ニ該港又ハ泊地ニ於テ貨物ノ陸揚ヲ爲シ又ハ戰時禁制品ニ非サル貨物ノ積載ヲ爲シ其ノ他開戰前ニ善意ヲ以テ著手シ現ニ履行中ノ取引ヲ完了シ且帝國官憲ニ請求シテ通航券ノ交付ヲ受ケ其ノ到達港又ハ通航券ニ指定セラレタル港ニ直航スルコトヲ得

第二條　大正三年八月二十三日前ニ最後ノ發航港ヲ出テタル獨逸帝國船舶ニシテ開戰ノ事實ヲ知ラスシテ帝國又ハ其ノ管治スル地域ノ港又ハ泊地内ニ入リタルモノハ該港又ハ泊地ニ於テ直ニ貨物ノ陸揚ヲ爲シ若ハ戰時禁制品ニ非サル貨物ノ積載ヲ爲シ又ハ其ノ取引ヲ完了シ帝國官憲ニ請求シテ通航券ノ交付ヲ受ケ其ノ到達港又ハ通航券ニ指定セラレタル港ニ直航スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該船舶ハ著港後二週間内ニ於テ帝國官憲ノ指定シタル期日迄ニ發航スルコトヲ要ス

第三條　前二條ノ規定ニ依リ帝國又ハ其ノ管治スル地域ノ港又ハ泊地ヲ出テタル獨逸帝國船舶ニシテ其ノ到達港又ハ通航券ニ指定セラレタル港ニ直航

7-0177

0453

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

中ノモノハ之ヲ拿捕セス但シ帝國其ノ管治スル地域、該船舶ノ所屬國又ハ其ノ管治スル地域ノ港又ハ泊地ニ寄港シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　獨逸帝國船舶ニシテ不可抗力ニ因リ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル期間内ニ帝國又ハ其ノ管治スル地域ノ港又ハ泊地ヲ出ツルコト能ハサリシモノ又ハ出港スルコトヲ許サレサリシモノハ賠償ヲ爲スノ義務ヲ負ヒテ之ヲ抑留シ又ハ賠償ヲ爲サスシテ戰爭後還付スルコトアルヘシ

第五條　開戰前ニ最後ノ發航港ヲ出テタル獨逸帝國船舶ニシテ海上ニ於テ帝國軍艦ニ遭遇シタル際開戰ノ事實ヲ知ラサルモノハ之ヲ拿捕セス

前項ノ船舶ハ賠償ヲ爲サスシテ戰爭後還付スルノ義務ヲ負ヒテ之ヲ抑留シ又ハ賠償ヲ爲シ、人員ノ安全ヲ保持シ且船舶書類ノ保管ヲ爲スノ義務ヲ負ヒテ之ヲ徵發若ハ破壞スルコトアルヘシ

第一項ノ船舶其ノ所屬國港又ハ中立港ニ寄港シタル後ハ海戰ノ法規慣例ニ依ル

第六條　第一條第二條第四條又ハ前條ノ船舶内ニ在ル敵貨ハ賠償ヲ爲サスシテ戰爭後還付スルノ義務ヲ負ヒテ之ヲ抑留シ又ハ賠償ヲ爲スノ義務ヲ負ヒテ船舶ト共ニ若ハ船舶ト離シテ之ヲ徵發スルコトアルヘシ

第七條　本令ハ獨逸帝國船舶ニシテ其ノ構造上軍艦ニ變更セラルヘキモノナルコト明カナルモノニハ之ヲ適用セス

第八條　本令ハ獨逸帝國カ帝國船舶及貨物ニ對シ本令ニ定ムル所ト異ル措置ヲ爲ス場合ニ於テ本令ノ全部又ハ一部ヲ適用セサルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○省令

海軍省令第九號

本年勅令第百六十三號獨逸帝國船舶拿捕免除ニ關スル件ニ規定スル帝國官憲ノ職務ハ其ノ港又ハ泊地ニ在ル帝國軍艦艦長、帝國軍艦在ラサルトキハ其ノ港又ハ泊地ノ港務部長又ハ警察官署ノ長其ノ他之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

大正三年八月二十三日

内務大臣　伯爵大隈重信
外務大臣　男爵加藤高明
海軍大臣　八代六郎

○訓令

内務省訓令第十號

臺灣總督府　廳府縣

帝國ト獨逸帝國トノ間國交斷絶シタルニ依リ在帝國獨逸帝國大使館及領事館撤退スルコトナルベキヲ以テ帝國ニ在留セル獨逸帝國臣民ノ保護ニ付特ニ注意スヘシ

大正三年八月二十三日

内務大臣　伯爵大隈重信

内務省訓令第十一號

臺灣總督府　廳府縣

今回獨逸帝國ニ對シ戰ヲ宣スルニ至リタルハ素ヨリ深ク遺憾トスルトコロニシテ其ノ臣民ニ對シテハ秋毫モ敵意ヲ有スルコトナシ故ニ現ニ帝國内ニ在ル者ハ安ンシテ居留スルコトヲ得ヘク其ノ帝國ヲ退去セムトスル者ハ毫モ之ヲ妨ケス新ニ渡來スル者亦敢テ拒マス彼等ニ對シテハ平穩且適法ノ業務ニ從事スル限リ法令ノ定ムル所ニ從ヒテ身體生命名譽及財産ヲ保護シ且帝國裁判所ノ救濟ヲ受クルコトヲ得シムヘシ然レトモ現締上必要ナル行政處分又ハ軍事上ノ目的ニ出ツル陸海軍官憲ノ處分ヲ爲スニ就テハ帝國政府ハ何等ノ拘束ヲ受クルコトナク其ノ身體生命名譽及財産ニ對スル保障ト雖モ之カ爲ニ其ノ幾分ヲ縮少スルヲ妨ケス其ノ必要アルニ當リテハ或ハ退去ヲ命シ或ハ渡來ヲ拒ミ或ハ退去ヲ禁シ或ハ移轉旅行ヲ禁止若ハ制限スルコトアルハ固ヨリ言フ俟タス若シ夫レ彼等ニシテ其ノ本國ノ爲ニ軍事上ノ利便ヲ計リ又ハ帝國及同盟國ノ軍事上ノ利益ヲ害シ其ノ他帝國ノ安寧秩序ヲ紊ルカ如キ苟モ帝國及同盟國ノ利益ト相容レサル行動ヲ爲ス者アラハ法令ノ定ムルトコロニ依リテ處分スルノ外直ニ之ヲ國外ニ退去セシムヘシ之ヲ要スルニ獨逸帝國臣民ニ對シテハ年來ノ交誼ニ顧ミ帝國及同盟國ノ利益ト牴觸セサル限リ帝國内ニ於テ可成丈完全ノ保護ヲ享ケシメムコトヲ欲ス局ニ當ル者宜シク意ヲ茲ニ致シテ彼等ヲ虐遇シ併テ帝國臣民ヲシテ亦能ク此ノ趣旨ヲ體シ彼等ニ對スルニ寛宏ヲ旨トシ苟モ詭激ノ言行ニ出ツルカ如キコトナカラシムル樣注意スヘシ

大正三年八月二十三日

内務大臣　伯爵大隈重信

海軍省訓令第一號

日獨交戰中戰時禁制品ト爲スヘキモノ左ノ通定ム

大正三年八月二十三日

海軍大臣　八代六郎

第一條　左ニ掲クル物品ハ之ヲ絶對的戰時禁制品トス

一　一切ノ武器（狩獵用武器ヲ含む）及其ノ組成品タルコト明ナルモノ

二　一切ノ彈丸、裝藥、彈藥包及其ノ組成品タルコト明ナルモノ

三　特ニ戰爭用トシテ製造セラレタル火藥及爆發物

四　砲架、彈藥車、前車、軍用運搬車、野戰鍛冶器及其ノ組成品タルコト明ナルモノ

五　軍用タルコト明ナル被服及武裝具

六　軍用タルコト明ナル一切ノ馬具

七　特ニ軍用トシテ製造セラレタル工兵器材

八　戰爭ノ用ニ供スルコトヲ得ヘキ乘用騾用駄用ノ獸類

九　陣營具及其ノ組成品タルコト明ナルモノ

十　甲鐵鈑

十一　軍艦及戰鬪用艇舟並特ニ上記艦艇ニ使用シ得ヘキコト明ナル組成品

十二　飛行機、飛行艇、氣球其ノ他一切ノ航空機及其ノ組成品タルコト明ナルモノ並航空標用ニ供セラルルモノト認ムヘキ屬具物件及材料

十三　兵器彈藥製造ノ爲又ハ陸海軍用ノ武器及材料ノ製造修理ノ爲專ラ作製セラレタル機械器具

第二條　左ニ掲クル物品ハ之ヲ條件附戰時禁制品トス

一　糧食

二　獸類ハ飼料用ニ適スル芻秣及穀類

三　軍用ニ適スル被服、被服用織物及靴類

四　金銀貨幣、地金銀及紙幣

五　戰爭ノ用ニ供スルコトヲ得ヘキ一切ノ車輛及其ノ組成品

六　一切ノ船舶及艇舟、浮船渠、船渠ノ部分並其ノ組成品

七　鐵道ノ固定及運轉用材料並電信、無線電信及電話ノ材料

八　燃料及機械潤滑用材料

九　特ニ戰爭用トシテ製造セラレタルモノニ非サル火藥及爆發物

十　刺アル鐵線及其ノ架設又ハ切斷用ニ供スヘキ機械器具

十一　蹄鐵及蹄鐵用材料

十二　競用及騎用ノ物件

十三　雙眼鏡、望遠鏡（「クロノメートル」及各種ノ航海用具

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

文部省訓令第八號

本日獨逸帝國ニ對シテ戰ヲ宣セラレタル趣旨ハ炳トシテ詔書ニ明ナリ今回ノ事タル其ノ關スル所極メテ大ニシテ國民ノ責任ハ將來一層ノ重キヲ加ヘントス事ニ教育ニ當ル者他年此ノ責任ヲ負擔スヘキ國民ハ即チ今日ノ青年子女ナルコトヲ思ヒ益々力ヲ教養ニ效シ以テ其ノ本分ヲ完ウセンコトヲ期スヘシ

國交既ニ絶エタリト雖其ノ臣民ニ對シテハ固ヨリ敵意アルヘキニアラス此ノ際學生生徒ヲシテ敵愾心ニ驅ラレテ交戰國民ニ對シ不穩當ノ言動ヲ敢テシ國民ノ品帑ヲ傷クルカ如キコトナカラシムヘシ

學校職員ニシテ召集ニ應シタル者アルトキハ務メテ優遇ノ途ヲ講シ又出征及應召軍人ノ子女ニ對シテハ其ノ修學ノ便宜ヲ圖リ以テ忠勇ナル軍人ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメンコトヲ期スヘシ

大正三年八月二十三日　文部大臣　法學博士一木喜德郎

文部省訓令第九號

神佛各教宗派管長

今回詔書煥發ニツキ本日文部省諭告第一號ヲ以テ諭示スル所アリ教宗派管長タル者深ク此ノ意ヲ體シ部屬教師ヲ奮勵シ以テ泰公ノ實ヲ舉ケシメンコトヲ期スヘシ

大正三年八月二十三日　文部大臣　法學博士一木喜德郎

○告示

内閣告示第四號

帝國ハ本日午後零時ヨリ獨逸國ト國交斷絶シテ交戰狀態ニ入レリ

大正三年八月二十三日　内閣總理大臣　伯爵大隈重信

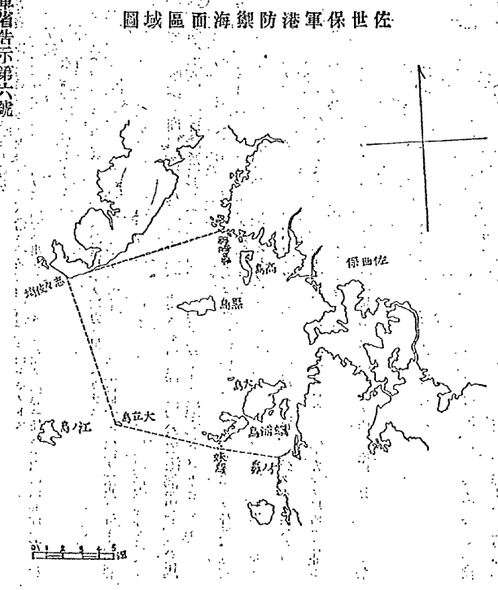
海軍省告示第五號

大正三年八月二十三日ヨリ左ノ區域ヲ佐世保軍港防禦海面ト定ム

大正三年八月二十三日　海軍大臣　八代六郎

才ノ鼻、妹島南端、大立島、志自伎埼、神埼鼻ノ連結線以内ノ海面但シ大村内灣ヲ除ク

佐世保軍港防禦海面區域圖



海軍省告示第六號

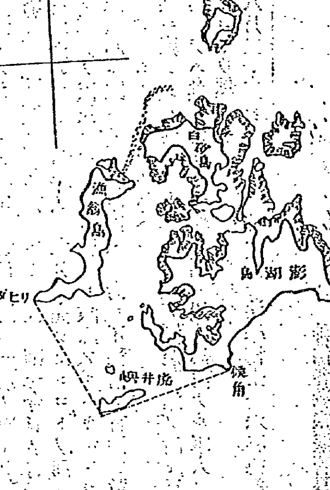
大正三年八月二十三日ヨリ左ノ區域ヲ馬公要港防禦海面ト定ム

大正三年八月二十三日　海軍大臣　八代六郎

リシター角、虎井嶼南端、候角ノ連結線以内ノ海面

7-0177
0454
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

馬公要港防禦海面區域圖



○諭告

文部省諭告第一號

今回宣戰ノ趣旨ハ炳トシテ詔書ニ明ナリ此ノ時ニ當リ國民タル者協心戮力以テ其ノ本分ヲ盡スヘキハ言ヲ俟タス宗敎ノ事ニ從フ者宜シク敎徒及檀信徒ヲ指導シテ各自ノ嚮フ所ヲ愆ラシメス奉公ノ至誠ヲ效スニ於テ遺憾ナカラシメンコトヲ期スヘシ

今ヤ帝國ハ獨逸帝國ト交戰ノ狀態ニ在リト雖臣民相互ノ間何等ノ私怨アルニアラス布敎傳道ノ職ニ在ル者特ニ意ヲ此ニ致シ敎徒及檀信徒ヲシテ此ノ際交戰國民ニ對シテ深ク其ノ言動ヲ愼ミ苟モ人道ノ本義ニ悖ルカ如キコトナカラシムヘシ

大正三年八月二十三日　文部大臣　法學博士　一木喜德郎

○彙報

○陸海軍

○佐世保軍港防禦海面取締法及通航船舶ニ關スル規程　佐世保鎭守府司令長官ハ佐世保軍港防禦海面取締法及通航船舶ニ關スル規程ヲ左ノ通定メタリ（海軍省）

佐世保軍港防禦海面取締法及通航船舶ニ關スル規程

第一條　軍港內一般ノ海上取締ハ佐世保海軍港務部長之ニ任シ港口及港口外ニ於ケル海上取締ハ佐世保港口防禦指揮官之ニ任ス

第二條　陸海軍ニ屬セサル船舶ニシテ軍港境域內ヲ通航若ハ出入セントスルモノハ豫メ鎭守府司令長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及端舟其ノ他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ニ在リテハ本條ノ規定ニ關セス港口附近ニ在リテ停止シ佐世保港口防禦指揮官ノ指示ニ從フヘシ

第三條　防禦海面ヲ出入若ハ通航シ又ハ之ニ碇泊セントスル船舶ハ必ス一旦船舶寄泊地ニ停止シ特設監視船若ハ水路嚮導船ヨリ其ノ行動並標識信號等ニ關スル指示ヲ受クヘシ

第四條　船舶寄泊地左ノ如シ

入港ノトキ（神崎鼻ノ西方　約一浬　志自伎埼ノ南方　約一浬
　　　　　（高床鼻ノ西方　約一浬　寺島水道南部

出港ノトキ　軍港內庵埼ノ南方

第五條　特設監視船若ハ水路嚮導船ハ常ニ船舶寄泊地附近ニ在ルモノトス

第六條　本軍港防禦海面區域內ヲ通航若ハ出入セントスル船舶ノ嚮導ニ任スル水路嚮導船ハ左ノ標識旗ヲ檣頭ニ揭揚ス

晝間　水先船旗（上白下赤ノ方旗）

夜間　白燈二箇

第七條　防禦海面內ヲ通航スル船舶ハ八海里以上ノ速力ヲ用ユヘカラス

第八條　軍港境域內沿岸居住民ノ船舟ニ對シテハ日中ニ限リ防禦海面令第四條ノ禁止ヲ解キ本規程第二條ヲ適用セス

第九條　防禦海面ニ於テハ豫メ鎭守府司令長官ノ認可ヲ得ルニアラサレハ漁獵採藻水泳等ヲ爲スヲ禁ス

○馬公要港防禦海面取締法及通航船舶ニ關スル規程　馬公要港部司令官ハ馬公要港防禦海面取締法及通航船舶ニ關スル規程ヲ左ノ通定メタリ（海軍省）

馬公要港防禦海面取締法及通航船舶ニ關スル規程

第一條　本規程ハ馬公要港防禦海面ヲ指定セラレタル場合海陸軍ニ關スル船舶ヲ除クノ外其ノ防禦海面區域內ニ出入若ハ通航セントスル船舶ニ適用ス

第二條　海陸軍ニ屬スル船舶ノ外要港部司令官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ馬公要港防禦海面ニ出入スルヲ得ス

第三條　前條ノ許可ヲ受ケントスル船舶ハ豫メ出願シテ防禦海面出入許可證ヲ受クルヲ要ス此ノ證ハ他人ニ貸與シ又ハ讓リ渡スコトヲ得ス

第四條　本要港ヲ出入セントスル船舶（前條許可ヲ受クヘキ船舶ヲ含ム）ハ總テ左記ノ場所ニ停止シ第五條ノ信號ヲ爲シ水路嚮導船ノ至ルヲ待ツヘシ

一、入港ノ場合

漁翁島吃仔尾（リッシター角）燈臺ヨリ南西ニ見ル線及同燈臺ヨリ南西微南ニ見ル線ノ間ニ於テ同燈臺ヨリ一浬半以外ノ所

二、出港ノ場合

風櫃尾角ト海漧岩トノ一線以內

第五條　前條ノ位置ニ停止シタル船舶ハ船名符字信號及左ノ信號ヲ爲スヘシ

一、汽船ニ在リテハ要招水先信號ヲ揭ケ汽笛ヲ連吹スヘシ

二、帆船ニ在リテハ要招水先信號ヲ揭ケ號角ヲ鳴ラスヘシ

第六條　水路嚮導船ハ前條ノ船舶ヲ認メタルトキハ萬國船舶信號ノ回答旗ヲ揭ケ其ノ應答トシ水路嚮導ヲ爲ス但シ第二條ノ許可ヲ請フモノニ對シテハ要港部ノ指令ヲ待ツヘシ

又水路嚮導船其ノ船舶ニ對シ任意ノ行動ヲ許サントスルトキハ前條ノ回答旗ヲ降下スルモノトス

第七條　水路嚮導船ハ晝間ニ在リテハ萬國船舶信號書中英國船舶ニ使用スル特別信號ノ水先船旗（上白下赤ノ旗）ヲ其ノ檣上ニ揭揚シ夜間ニ在リテハ白燈二箇ヲ前檣ニ連揭ス

第八條　防禦海面通航ノ船舶ハ監視船艇又ハ水路嚮導船ノ臨檢ヲ受ケ且其ノ尋問ニ對シテハ一切ノ事由ヲ明示スヘシ

第九條　汽船要港ヲ出入セントスルトキハ五浬以下ノ速力ヲ使用スヘシ

第十條　左記ノ海面及水道ハ要港部司令官ノ特許アルニ非サレハ一切船舶ノ接到又ハ通航ヲ禁ス

澎湖島虎井嶼漁翁島白沙島吉貝嶼目斗嶼ノ外周三浬ノ海面

第十一條　防禦海面區域內ニ於テ全ク船舶ノ通航ヲ禁止シタルトキハ「リッシター」信號所ニ於テ萬國船舶信號N旗ヲ揭揚ス

第十二條　日沒ヨリ日出ニ至ル間ハ特ニ許可セラレタル船舶ノ外一切船舶ノ要港內ニ出入スルコトヲ禁ス

第十三條　防禦海面區域內沿岸住民ノ船舶ニシテ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スルモノニ對シテハ日中ニ限リ特ニ防禦海面令第四條ノ禁止ヲ解ク

第十四條　防禦海面ニ於テハ要港部司令官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ漁獵採藻ヲ爲スヲ得ス

第十五條　總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舟其ノ他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ノミヲ以テ運轉スル船舟ハ第一條第二條第三條ノ規定ニ關セス通航スルコトヲ得但シ必要ニ應シ一時其ノ通航ヲ制限シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

第十六條　前條ニ揭クル船舟ニシテ防禦海面令第三條ノ規定ヲ犯シ夜間防禦海面ヲ通航スルモノナルトキハ哨艇又ハ監視船艇ヨリ砲擊セラルルコトアルヘシ

7-0177
0455
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

政機第六五號

大正三年八月廿三日　加藤外務大臣

在本邦
独逸大使宛

日独間戰爭狀態声明ノ件

以書翰致啓上候陳者本月十五日附本大臣書翰
附屬通牒ニ基キ本月二十三日正午以来帝國ハ貴
國トノ戰爭狀態ニ在ルコトヲ声明致候就テハ茲ニ閣下迄
貴大使館員及其ノ家族カ帝國領土ヲ立去ラルルニ付
海陸ノ安全ヲ保障スル為旅行券一通同封差進候間
御査收相成度候
本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

外務省

別紙旅行券相當形式ニ倣ヒ同封ノ

7-0177

0456

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

旅行券

帝國駐劄独逸帝國特命全權大使伯爵
フオン、レックス閣下及同大使館員ハ其家族ト共ニ
今般本邦ヲ揚ヒ沿道ノ諸官ハ適當ノ保護
及便宜ヲ供與セラルヘシ

大正三年八月廿三日

外務省

外務省

7-0177

0457

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電送

大正三年八月廿三日收一、三〇、着

加藤外務大臣

在米

珍田大使

第二一〇號

帝國政府ノ勧告ニ對シ独國政府ヨリ回答ヲ得サリシニ付本月二十三日午後ヲ以テ帝國ハ独國ト戦争状態ニ入レリ貴官ハ之ヲ米國政府ニ通報セラルルト同時ニ在独帝國臣民ノ保護ヲ託セラレタシ右保護ノ件独國政府ニ通知方御訓令セラルカ米國政府ヨリモ独國政府ニ申入ルヘク様内話アリタシ

尚左ノ通貴信下（ホルヘ、ヲ含ム）及加奈太在領事ヘ

参考事ヘ転電アレ

帝國政府ノ勧告ニ対シ独國政府ヨリ回答ヲ得サリシニ付本月二十三日午後ヲ以テ帝國ハ独國ト戦争状態ニ入レリ貴官ハ必要アラハ之ヲ其地外務當局ニ通知セラレタシ

外務省

7-0177

0458

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電送暗

大正三年八月廿三日後一四五発

在英

井上大使

加藤外務大臣

第一五五號

帝國政府ノ勧告ニ對シ独國政府ヨリ回答ヲ得サリシニ付
本月二十三日正午ヲ以テ帝國ハ独國ト戦争状態ニ入レリ
在独帝國臣民ノ保護ニ米國政府之ヲ担任ス貴官ハ
以上ハ英國政府ニ通知スルト同時ニ帝國カ同盟ノ義務
ヲ完フシ英國ト共ニ共同敵ニ當ルハ其最モ欣幸トスル
所ニシテ英國ヨリ真摯ナル同情ヲ得ムコトヲ信シテ
疑ハサル旨ヲ附言セラルヘシ

外務省

7-0177

0459

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電送

大正三年八月廿三日午後四時

加藤外務大臣

在外

本邦各大公使宛

第號

帝國政府カ本月十五日独國政府ニ為シタル勧告ニ對シ独國政府ヨリ回答ヲ得サリシニ付本月二十三日正午ヲ以テ帝國ハ独國ト戰爭狀態ニ入レリ在独帝國居民ハ保護ハ米國政府之ヲ担任ス

貴官ハ以上ヲ帝國政府ノ訓令トシテ責任國政府ニ通知セラルヘシ

尚左ノ通リ貴官下僚事及名譽領事ニ転電アレ

帝國政府ノ勧告ニ対シ独國政府ヨリ回答ヲ得サリシニ付本日廿三日正午ヲ以テ帝國ハ独國ト戰爭狀態ニ入レリ貴官ハ

外務省

仏國アラハ之ヲ其地方官憲ニ通知セラルヘシ

7-0177

0460

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

政送第　號

大正三年八月廿三日　加藤外務大臣

在本邦
英佛露米蘭丈公使宛

以書翰致啓上候陳者去十五日御内報に及ひたる帝國政府ノ勧告に對し独國政府より回答を得サリしに付本月十三日正午を以て帝國は独國と戰爭狀態に入りたる旨を直報致候

右大臣に於て宣しく貴下に向ひ致意の表し度敬白

外務省

7-0177

0461

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

政送第　號

大正三年八月廿三日　加藤外務大臣

在本邦各國代表者宛

（但墨佛、露、米、文、蘭ノ除ク）

以書翰致啓上候陳者日英同盟協約ノ豫期セル全般ノ利益ヲ防護セムカ為メ帝國政府カ本月十日ヲ以テ独國政府ニ対シ同國政府ノ回答ヲ待サルニ付本月三十三日午ヲ以テ帝國ハ独國ト戦爭状態ニ入リタルモノト認メタル旨通報致候

右大臣ノ名ニテ閣下ニ向フ敬意ヲ表シ候敬白

外務省

7-0177

0462

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

外務省

電送第（自一七四 至一七九）號　大正九年一月十日発八、麦

在外
各大公使
各領事宛

内田大臣

合第一號

一月十日巴里ニ於テ對独平和條約第一回批准書ヲ
調書調印セラレタルコト及十三日十日附官報號外ヲ以テ別
電合第二號ノ詔勅公布セラルヽ旨右為参考方
可送付ハレタシ

合第二號

詔勅

詔書

朕惟フニ今次ノ大戦乱ハ兵戈五年ニ彌リ世界ヲ震動セシメタルモ我カ聯合諸友邦勇奮努力ノ威烈ニ頼リ戦氣一掃平和全ク復スルニ至リタルハ朕ノ甚タ懌フ所ナリ今ヤ斯ノ紛擾ノ局ヲ収メ安寧ヲ将来ニ規ルハ固ヨリ諸友邦ノ協同戮力ニ須タサルヘカラス曩ニ講和會議ノ佛國ニ開カルヽヤ朕亦全権委員ヲ簡派シ其ノ商議ニ參セシメシニ平和ノ永遠ノ協定新ニ成リ國際聯盟ノ規模斯ニ立ツ是レ朕カ中心實ニ欣幸トスル所ナルト共ニ又今後國家負荷ノ重大ナルヲ感セスムハアラサルナリ

今ヤ世運一展シ時局丕ニ変ス宜シク奮勵自彊随時順應ノ道ヲ講スヘキノ秋ナリ爾臣民其レ深ク之ニ省ミ進シテハ萬國ノ公是ニ循ヒ世界ノ大經ニ仗リ以テ聯盟平和ノ實ヲ挙ケムコトヲ思ヒ退イテハ重厚堅實ヲ旨トシ浮華驕奢ヲ戒メ國力ヲ培養シテ時世ノ進運ニ伴ハムコトニ勉メサルヘカラス

朕ハ永ク友邦ト偕ニ和平ノ慶ニ頼リ休明ノ澤ヲ同クセムコトヲ期シ朕カ忠良ナル臣民ノ一心協力ニ倚藉シ衆庶ノ康福ヲ充足シ文明ノ風化ヲ廣敷シ以テ祖宗ノ洪業ヲ光恢セムコトヲ庶幾フ爾臣民其レ克ク朕カ旨ヲ體セヨ

御名御璽

大正九年一月十日

内閣総理大臣
司法大臣　原　敬

海軍大臣　加藤友三郎

外務大臣子爵　内田康哉

大蔵大臣男爵　高橋是清

陸軍大臣　田中義一

外務省

7-0177

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

C o p y.

It is a source of deep rejoicing to us that the gigantic war which has plunged the whole world into unspeakable consternation for the past five years has at last come to an end through the valiant and unstinted efforts of the Powers in alliance with us, and that the peace of the world has thus been at length restored. The final reparation of the results of so great a catastrophe and the gurantee of the reign of tranquility in the future, needless to say, depend altogether upon the wholehearted cooperation of all the allied Powers. With these considerations in mind, we despatched our delegates to the Peace Conference which was lately held in France, with instructions to participate in its deliberations. We are now much gratified to know that a new treaty looking to the establishment of perpetual peace has been arrived at and the foundation of a League of Nations laid down, while at the same time we are fully conscious of the heavy responsibility henceforth devolving upon our country.

At the opening of this fresh chapter in the history of the world and in view of the tremendous changes in its aspects however regarded, we hold it to be high time that all loyal Japanese subjects should address themselves, with the best endeavours at their command, to the task of adapting their activities to the onward march of events. We therefore call upon our subjects that, keeping this cardinal aim constantly before them, they should in the first instance work for the attainment of that durable peace contemplated by the institution of the League of Nations,

always abiding by the principles of universal justice and following the path of progress of the world. It is at the same time our earnest hope that, making it their guiding principle to keep to a sound and wholesome fashion of living and eschewing as unworthy of them all forms of frivolity and luxury, they will devote their efforts to furthering the advancement of the national resources with a view to keeping peace with the advance of human progress.

Trusting that we may enjoy for evermore the blessings of peace and tranquility together with the whole company of friendly nations, we give expression to our ardent hope that, relying upon the undivided cooperation of our loyal subjests, we shall accomplish the task of advancing the general welfare of the entire people and of spreading throughout the land the utmost benefits of civilization, so as to crown the past achievements of our forefathers with imperishable glory, and we hereby enjoin upon our loyal subjects to fulfil our wishes herein expressed.

7-0177

0465

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電送第一七〇八號　大正九年二月四日后三、四〇着

在西
三浦臨時代理公使

第九號

米國参戰以來独國ニ於ケル帝國ノ利益ヲ代表シ在留邦人ノ保護殊ニ伯林及漢堡ニ於ケル我公使館ノ保管ノ任ヲ盡サシタル西國政府ノ努力ト厚意ニ對シ帝國政府ノ深厚ナル謝意ヲ同國政府ヘ申入レラレ且ツ同時ニ右西地ノ同國憲ヘ其傳達方ヲ依頼セラレタシ

外務省

7-0177
0466
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp